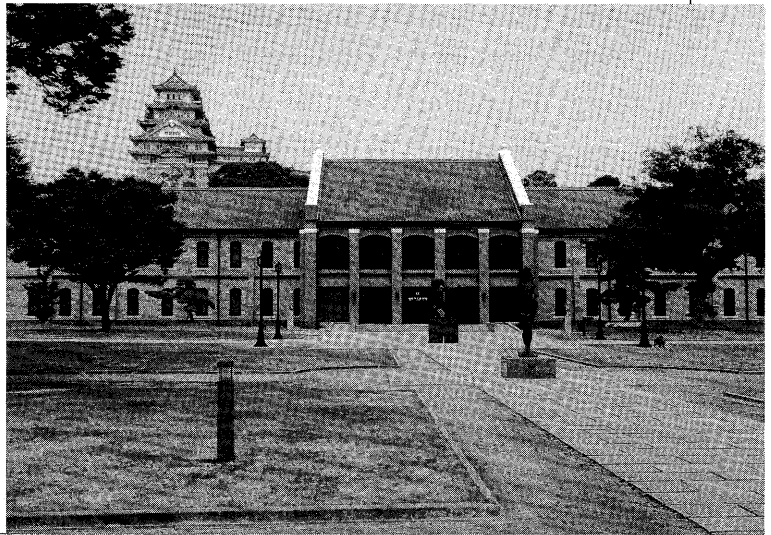


姫路市立美術館

所在地：兵庫県姫路市本町68-25

設置：姫路市

運営：姫路市教育委員会



■館の概要

姫路城を囲む姫山公園の一角、特別施設地内にある。建物は1905年（明治38年）に旧陸軍の軍用倉庫として建てられた赤煉瓦造りの建物を改装したもの。開館は1983年（昭和58年）。

松岡映丘、和田三造など郷土出身の作家を中心に、近代絵画、刀剣、陶芸などを収集。最近ではマグリットなどのベルギー美術のコレクションも特徴となっている。常設展、企画展ともに年間6回程度を開催。ほかに、屋外や展示会場でジャズや室内楽のコンサートを行っており、美術館を楽しんでもらうことに力点を置いている。

また、友の会会員が約1,000名おり、会を通じてボランティアを組織、約180名のボランティアがいる。企画、事務補助、編集、研修の各班に分かれて自主的に活発な運営を行っている。

■情報システムの概要

1. 映像系・展示系システム

1994年2月に、姫路市が通産省の「電源地域情報基礎整備モデル事業」の指定を受けたことを機に構築された。姫路市教育委員会の一組織である「城郭研究室」（城郭公園内に立地）と姫路市立美術館をISDN回線で結び、城郭研究室で入力した姫路城関連の情報を美術館に設置した機器で見ることを可能にしたシステム。同美術館は、国宝の姫路城に隣接しており、このシステムによって美術館の来館者を姫路城に誘導したり、姫路城についての情報を得られるといった利便性の向上に結びついたとのことである。

システム構成は図に示したとおりである。城郭研究室のサーバーに蓄積した情報と同美術館に設置したレーザーディスクプレイヤーからの映像をそれぞれのディスプレイで表示する。美術館独自の画像情報をスキャナーで入力してサーバーに蓄積し、それぞれのクライアントで検索・表示することも可能である。

しかし、システム構築の初期費用については国から一定の補助があったものの、構築後の維持管理費は市の負担であり、美術館の情報の入力はほとんど行っていない。こうした維持費の負担と費用対効果の点から、教育委員会は、このシステムは一定の成果をおさめ使命を終えたものとして1997年3月に廃止する方針を打ち出している。

「システムを構築した当時、美術館内に収蔵品管理や展示・映像系システムの構想はあったが、システム構築にあたってモデル事業であることが前面に打ち出され、学芸員の意見が十分反映されていない。そのために館として十分に活用できていない」と館職員は指摘している。

現在、収蔵品などの情報はカードで整理しており、情報機器によるシステム化は行っていないが、コレクションもしだいに増えているので収蔵品管理システムやそれと連携した展示・提供系システムを検討したい意向はあるが、財政状況や著作権の問題から具体的な計画は未定とのことである。

一方で、市民の有志が美術館の広報に協力した形でインターネットを通じて企画展などの情報を提供している。まったくのボランティアな協力であるが、著作権や情報への責任負担の問題から、一般的な施設案内以外のたとえば企画展などの情報については開催期間中だけ流すことに限定して認めている。

2. その他のシステム

館で利用しているシステムはこのほか、市役所の情報管理担当課のコンピューターと接続した形で利用している財務会計処理のシステム、市役所との間で訃報などのお知らせ文書のやりとりをパソコン通信で行っているシステムがあるがいずれも市のシステムのなかに組み込まれているものである。

システム全体構成図

